

あまり淋さびしくないやうに
赤あかい燈火あかりを一つ置をき
歌うたがしづかにひゞくよに
青あをい燈火あかりを一つ置をき

一人歌ひとりうたへば六人にんは
しづかに聴きいて一人ひとりづ、
七ななつの歌うたをくりかへし
今宵こよみひと夜よは歌祭うたまつり

かへり路

今日けふも北風きたかぜ、もう日ひが暮くれる
遠とほい焚火かまどの枯草堤かれくさづえ
空荷車からにぐるまがからく帰かへる
さあさ、帰かへろよ独楽こままたあした

水田みづうらちらく／＼灯あかりもついた
一羽いちば鴉がしも啼なき／＼渡わたる
今日けふのお月つきさままだ／＼細ほそい
早く帰かへろよ暇ひまは駆かけて

さあさ急いそごよ襟卷えりまきしめて
暇ひま起こえてもまだ家遠うちとほい
山やまの灯あかりは火葬場やまばの人ひとか
暗くらくなつたよもつと／＼駆かけて

赤い櫛

かんからり かんからり
ちんからからり

鳴り鳴りとほる 櫛の鈴